

## 第21回 参議院選挙を顧みて

会員の皆様、昨夏は大変お世話になりました。温かいご支援とご協力を頂き心から感謝申し上げます。しかし、結果は悲しい落選となってしまいました。栃木県は松原まなみさん支持で3年後の必勝を目指そうと決意しましたが、松原さんご自身が諸事情からご辞退されましたので、大変残念ですが、新しい候補者を決めて選挙戦が始まる予定です。

今回、松原さんは167,595票獲得しましたが、自民党への逆風がつよく、当選には及びませんでした。栃木県では6,190票、前回よりは1,946票上回りましたが、それでも不思議なことに、連盟会員数には届きませんでした。しかし14支部は頑張りました。「残念・悔しいショックです。」と今年の年賀状のほとんどにこの言葉が入っていました。

でも前を向いて頑張らねばなりません。そこで今回の選挙から得た様々な体験や想いを3人の支部長に記していただき、3年後の教訓に生かしたいと思います。「千里の行も足元から始まる」～はじめは目的にほど遠くても、着実に歩を進めていけば大事が成る～の格言のように、新たな気持ちで力を尽くして皆様と共に前進していきましょう。(伊藤正子)



県北支部長  
賀川 康子

### 3年後の 参院選に向けて

「看護の心が世界への愛となり、平和を願う行動になり、政治参加が実現した。先輩の点した国政参加の灯を、私たちは自分の世代で消してはならない。点灯し続けることが後継看護職の責務である。」と私は思う。

先輩の努力によって、今日の看護制度が確立されたのである。汗と涙の結晶によって築かれた、看護職の参政権のことを忘れてはならない。

しかし、3年後には国政参加議席が全て失われようとしている。全国の看護職は、今、危機感をもって立ち上がることが急務である。

◆「看護職は単に一労働者に終わって良いのか。」と自問し、専門職として看護を確立しよう。保健師・看護師・助産師は、国民の健康問題を支える専門職でなければならない。政治参画なくして国民を支えられない。

◆理念と目標のない組織は滅びる。

看護協会と看護連盟は表裏一体である。とりあえず看護協会に入るだけでは、専門職としての責任を果たしたことはない。無納税・無銭乗車にも等しい。運動を支える実質的責任を負っていないからである。

看護職の代表を国会に送ることについて、現在の

看護職が全て結集すれば、数字上では選挙に敗戦する筈がない。なぜ負けてしまったのか？自らの組織力を省みない組織体質が薄弱であることは恥ずかしい。全力を尽くさなかったという外はない。このことを無念残念と思う看護職が何人いるか。それが問題である。

あらゆる苦しみや悲しみを、他山の石としか見ない体質が温存されていないか。反省したい。組織力の弱さが、看護文化の体質の弱体化をも包含していると言えるのかもしれない。

あらゆる看護職は勿論のこと、組織の統括者・看護管理者・看護教育者が、自らに警鐘を鳴らして行動する外に道はないと思う。行動する看護協会会員・看護連盟会員の拡大を推進しなければならない。まず行動しよう。



芳賀支部長  
岩崎 安子

### 3年後の 参院選に向けて

あけましておめでとうございます。昨年の参院選では、会員の皆様には多大な御協力を頂き、ありがとうございました。

日本看護連盟は、平成17年から結束も新たに“リフォーム連盟”を掲げ、組織の再構築として、各都道府県の支部改編をおこない、活動強化を図ってまいりました。

栃木県看護連盟は、当初12支部を拠点とし活動